

## Press Release

\*当リリースは、2月22日にフォルシアがフランスで発表した英文リリースの抄訳です

2021年3月24日

### 2020年度通期業績および2021年度ガイダンス

- **新型コロナウイルス対策従業員保護プロトコルが効果を発揮し高評価**
- **受注高は記録的な260億ユーロ、過去3年間の累積額は720億ユーロに**
- **下半期のネットキャッシュフローによる収入は10億ユーロ超え、上半期を完全に相殺**
- **流動性がコロナ危機以前の水準まで大きく回復**

#### 力強い回復により、キャッシュフローを筆頭に下半期は目標を上回る

単位：百万ユーロ	2020年度下半期	前年比	下半期の目標*	2020年度	前年比
売上高 一定の連結範囲と為替レート	8,484	-3.5% -3.5%	8,000以上	14,654	-17.5% -19.6%
営業利益 売上高に占める割合	520 6.1%	-18.5% -120 bps	5.5%以上	406 2.8%	-68.3% -440 bps
ネットキャッシュフロー	1,051	—	700以上	6	—

\* 2020年10月23日付2020年度第3四半期の売上高発表時の更新内容

#### 2021年度のガイダンスは、市場の回復を背景とした売上高の大幅なアウトパフォーマンスや堅実な営業レバレッジ、プラスのキャッシュフローを反映

世界の自動車生産台数は2021年に7,660万台に達する（前年比8%増）という慎重な仮定に基づき、フォルシアの2021年度通期のガイダンスは、次の通りです。

- **売上高は165億ユーロ以上**（連結範囲と為替変動によるマイナス影響約6億1,000万ユーロを含む）、**オーガニック売上高は600ベースポイント（bps）増を上回る大幅なアウトパフォーマンス**
- **営業利益率は売上高の約7%**。コロナ危機以前の水準に接近
- **ネットキャッシュフローによる収入は約5億ユーロ**（構造改革による約1億8,000万ユーロの現金支出を含む）、**年度末のEBITDAに対する純負債の比率は1.5倍未満**

#### 配当金は1株当たり1ユーロに回復（次回の株主総会で提案予定）

本日開催のキャピタルマーケットデーでは、今後の資本構造の変化に先立ち、フォルシアの「新しい視点」を提示（本日発行の別のプレスリリースをご参照ください）

- **水素モビリティへの投資を含む、グループの戦略と主な方向性を再確認**
- **2022年度のガイダンスを確定**
- **各ビジネスグループとグループ全体の2025年度のビジョンを発表**

**フォルシアのパトリック・コラーCEO より**

「コロナ危機の初期から実施されてきたレジリエンスのある行動と、生産再開に向けた入念な準備により、フォルシアは今年度下半期に財務目標をすべて上回る成績を収めました。特筆すべきはキャッシュフローで、上半期における現金支出を相殺し、債務削減に大きく貢献しました。260 億ユーロという記録的な受注高に反映されているように、このような困難な年にお客様からの信頼を一層得られたことを誇らしく思っています。

フォルシアの新型コロナウイルス対策プロトコルを厳守しながらも、この好調な業績に貢献するべく素晴らしい仕事をしてくれたすべてのフォルシアチームに感謝します。

2021 年度は、売上高の大幅なアウトパフォーマンスを取り戻し、収益性をコロナ危機以前の水準付近まで戻し、さらなるレバレッジの解消に貢献する堅実なキャッシュフローを生み出します。

本日キャピタルマーケットデーで発表されますが、私たちはフォルシアの将来の見通しに自信をもっています。そのため、2021 年度に配当金の支払いを再開し、株主の皆様にご公正に還元したいと考えています。」

- 2020 年度の連結財務諸表は、2021 年 2 月 19 日に開催された取締役会において、ミシェル・デ・ローゼンが議長を務める下、承認されました。これらの財務諸表は監査済みです。
- フォルシアが主要業績評価指標として使用している営業利益は、企業結合で取得した無形資産償却前営業利益です。他の用語の定義については、本プレスリリース末尾の「本文中で使用されている用語の定義」で説明しています。
- 世界または各地域の自動車生産に関する数値はすべて、2021 年 2 月 16 日付の IHS マークイットの予測（CAAM の中国における予測に基づく自動車のセグメント）を参照しています。

**上半期は新型コロナウイルスの強い影響を受けるも、下半期は徐々に回復**

今年度の前半は、自動車産業や経済のあらゆるセクターに大きな影響を与えた新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を強く受けました。

この期間はほとんどの顧客が生産拠点を一時的に閉鎖したため、フォルシアでも多くの拠点で生産を停止せざるを得ませんでした。

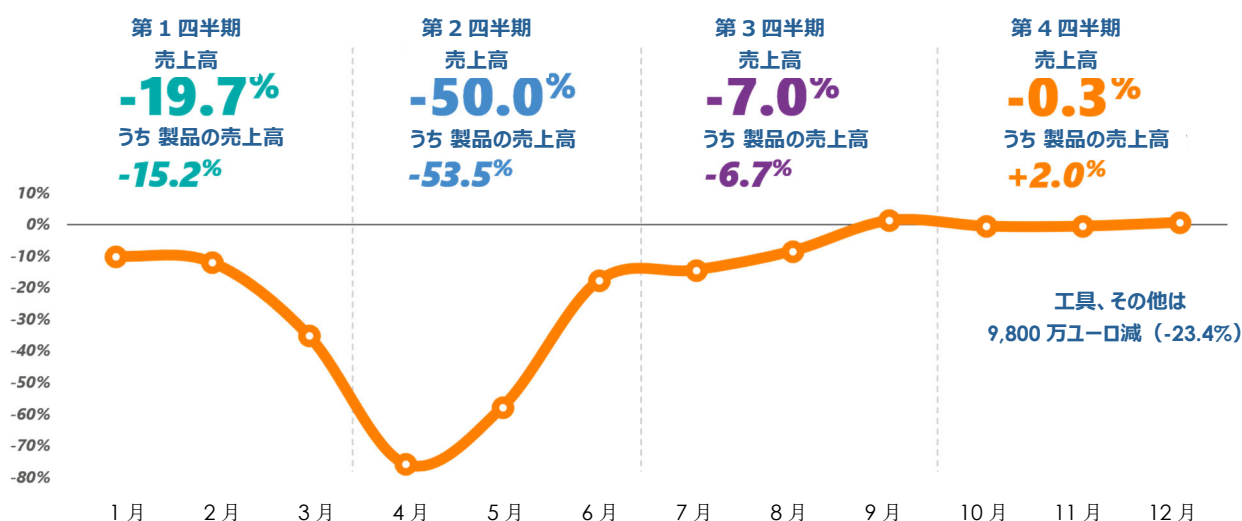
今年度の第 1 四半期、世界の自動車生産台数は特に中国の影響を受け、22%減の 1,720 万台となりました。第 2 四半期には、中国が復興しつつある一方で、主に欧州と北米の影響を受け、46%減の 1,150 万台となりました。

この前例のない状況で、フォルシアは機敏性を証明し、以下の 3 つの優先事項を掲げつつ、この危機に対応するための強力な行動計画をただちに実施しました。

- 最優先事項は、全従業員の健康と安全、そして生産を安全に再開するための適切な状況を作り出すことでした。これらはいずれも、「団結してより安全に、より強く（Safer and Stronger Together）」と呼ばれる効果的なプロトコルと、個人用保護具の社内生産によって管理されました。
- 第 2 の優先事項は、グループの流動性に対する綿密な管理と健全な財務構造の保持でした。6 月 30 日の最も厳しかった時期や、年度末に財務の柔軟性を回復させた際、これらの方針が役立ちました。
- 3 番目の優先事項は、グループのレジリエンス（回復力）をさらに向上させるための迅速なアクションを展開することでした。これにより、年間を通じて強力な営業レバレッジを維持し、採算の取れない事業を減らすことができました。

第 3 四半期以降、世界の自動車生産は回復し始め、第 3 四半期の世界の自動車生産台数は 2019 年度第 3 四半期（1,950 万台）に対してわずか 3.7%減少にとどまり、第 4 四半期には 2019 年第 4 四半期（2,240 万台）と比較して 2.9%増加しました。

以下のグラフは、四半期ごとのフォルシアのオーガニック売上高の推移を示しています。



フォルシアの売上高の推移は、世界の自動車生産台数の四半期ごとの推移を反映しています。グループの製品の売上高（工具やプロトタイプを除く）が2020年度第4四半期にオーガニックベースで2%増加したことは特筆に値します。

### コロナ危機のなか、260 億ユーロという記録的な受注高

コロナ危機にもかかわらず、独自の総合顧客満足プログラム（Total Customer Satisfaction Program）により、**フォルシアは引き続き顧客満足度を向上させることができました。**

**2020年に260億ユーロという記録的な受注高を達成し、過去3年間（2018～2020年）の合計は720億ユーロとなりました。**これは継続的な市場シェアの拡大を示しているだけでなく、今後の収益性の向上も見込んでいます。

収益性の高い受注には、以下のものが挙げられます。

- **クラリオン エレクトロニクスの25億ユーロは**、当初の目標であった21億ユーロを大幅に上回っており、このビジネスグループの大きな可能性を示しています。
- **中国の20%は**、中国市場が今後も力強く成長する可能性を反映しています。

### 2020年度におけるその他の主要な業績

2020年度、**フォルシアは自社の戦略を継続的に展開しました。**その主な成果は次の通りです。

- **SAS Interior Modules の統合に成功**：SAS Interior Modules（現在はフォルシアが100%所有）は、2020年1月30日以降、インテリアビジネスグループ内に統合・連結されています。
- **IRYStec の買収**：カナダのスタートアップ企業であるIRYStecは、世界初のソフトウェアプラットフォーム（エネルギーを節約しつつ、ディスプレイシステムのユーザーエクスペリエンスを最適化するため、知覚と生理学を使用）を開発しました。すでにダイムラーの複数の車種向けに、連続生産されています。
- **中国における Xuyang および BAIC との新しい合併会社**：Xuyang との合併会社は、自動車ディスプレイ製品の生産・組み立て・販売、および OEM 向けの関連アフターサービスにおいて、新たな節目となる存在です。BAIC との合併会社は、フォルシアのシーティングのオペレーションをさらに強化するものです。BAIC は、世界でヒュンダイ/キアとダイムラーを、中国ではBAIC独自のブランドを展開しています（この合併会社は450人を雇用し、北京、重慶、黄驊、湘潭で4つの工場を運営しています）。
- **水素モビリティソリューションの推進**。特に、バヴァン（フランス）に水素貯蔵システムを専門としたグローバルセンターを設立し、2021年初頭に中国の大手高圧タンクメーカーであるCLDを買収したことが要因となりました。

フォルシアはまた、カーボンニュートラル・プログラムとサステナビリティ・イニシアチブを推進しました。

- フォルシアのカーボンニュートラル・プログラムはSBTiの承認を受けました。
- 2025年までにスコープ1および2でカーボンニュートラルを実現するというグループの取り組みをサポートするべく、シュナイダーエレクトリックとのパートナーシップが締結されました。
- フォルシアのサステナブルな購買戦略は、エコバティス社の認証を取得しました。
- フォルシアは、ウォール・ストリート・ジャーナルの「持続可能な経営企業100社」で42位にランクされました。

フォルシアのもうひとつの優先事項は、ジェンダーの多様性を高めることです。2025年までに管理職と専門職における女性比率を30%に、上位300名に占める女性比率を24%にすることを目標としています。

さらに、フォルシアの従業員エンゲージメントと人材育成の取り組みを強化し、その変革をサポートするためのより強固な学習組織と、フランスで1,000人の若い卒業生やインターン、見習生を維持するという決定を下しました。最新の従業員エンゲージメント調査では、評価が12ポイント向上し、76%となりました。

そしてグループはフォルシア・ファンデーションを立ち上げ、教育、モビリティ、環境に関するイニシアチブをサポートしています。

## 2020年度のグループ全体の売上高と利益率

コロナ危機と工場閉鎖の影響を強く受けた2020年度上半期と、生産量が回復し始めた2020年度下半期の売上高と営業利益の詳細を以下の表に示します。

単位：百万ユーロ	上半期	下半期	通期
<b>2019年度売上高</b>	<b>8,972</b>	<b>8,796</b>	<b>17,768</b>
為替差損益	△43	△330	△373
売上高に占める割合	-0.5%	-3.7%	-2.1%
オーガニック	△3,176	△307	△3,483
売上高に占める割合	-35.4%	-3.5%	-19.6%
連結範囲の変更による影響	417	324	741
売上高に占める割合	4.6%	3.7%	4.2%
<b>2020年度売上高</b>	<b>6,170</b>	<b>8,484</b>	<b>14,654</b>
報告ベースの変動割合	-31.2%	-3.5%	-17.5%
報告ベースの変動値	△2,802	△312	△3,115
<b>2019年度営業利益</b>	<b>645</b>	<b>638</b>	<b>1,283</b>
売上高に占める割合	7.2%	7.3%	7.2%
<b>2020年度営業利益</b>	<b>△114</b>	<b>520</b>	<b>406</b>
売上高に占める割合	-1.8%	6.1%	2.8%

### 下半期：

- **売上高は84億8,400万ユーロで、報告ベースおよびオーガニックベースで3.5%減少。連結範囲の変更によるプラス影響3億2,400万ユーロ(+3.7%)が、為替差損3億700万ユーロ(-3.7%)を相殺**
  - 下半期の為替変動のマイナス影響は上半期に比べて増加しました。これは主に、米ドル、ブラジルリアル、トルコリラ、中国元からのマイナス影響です。
  - 連結範囲の変更による影響は純額でプラスとなり、これはSASによる6ヶ月のプラス(3億6,700万ユーロ)と、2019年下半期において6月分も含めて7ヶ月間統合されていたクラリオン1ヶ月のマイナス(4,300万ユーロ)を反映しています。
  - 世界の自動車生産台数は下半期に0.3%減少したのに対し、オーガニックベースで売上高は3.5%減少しました。多地域にまたがっていることによる不利な影響約90bps減を反映すると、売上高は市場を230bps下回りました。これは主に、欧州におけるインテリアと、欧州・北米の商用車市場におけるクリーンモビリティの不調を反映しています。

- **営業利益は 5 億 2,000 万ユーロで売上高の 6.1%に達し、上半期における 1 億 1,400 ユーロの損失から劇的に回復**
  - これは一時的な費用 4,500 万ユーロを反映したもので、その内訳は新型コロナウイルス関連の追加費用 1,600 万ユーロ、中国の OEM のための費用 2,900 万ユーロとなっています。
  - これらの一時的な要素を除くと、営業利益は売上高の 6.7%となりました。

## 通期：

- **売上高は 146 億 5,400 万ユーロで、報告ベースで 17.5%減少、オーガニックベースで 19.6%減少**
  - 為替変動のマイナス影響は 3 億 7,300 万ユーロで、売上高の 2.1%減。
  - 連結範囲の変更によるプラス影響は 7 億 4,100 万ユーロ（4.2%増）で、これは SAS による 11 ヶ月のプラス（5 億 7,400 万ユーロ）とクラリオンによる 3 ヶ月のプラス（1 億 6,700 万ユーロ）を反映しています。
  - 世界の自動車生産台数が 17.2%減少したのに対し、オーガニックベースで売上高は 19.6%減少しました。多地域にまたがっていることによる不利な影響約 250 bps 減の調整後は、フォルシアは市場を 10 bps 下回りました（今年度のコロナ危機の影響を最も受けた欧州と北米は、昨年度のフォルシアの売上高の 74%を占めていましたが、世界の自動車生産のなかで占めていた割合はわずか 44%でした）。
- **コロナ危機と工場閉鎖の影響を強く受けた上半期の営業損失を下半期の力強い回復が相殺した結果、営業利益は 4 億 600 万ユーロ（売上高の 2.8%）**
  - これは一時的な費用 6,500 万ユーロを反映したもので、その内訳は新型コロナウイルス関連の追加費用 3,000 万ユーロ、中国の OEM のための費用 3,500 万ユーロとなっています。
  - これらの一時的な要素を除くと、営業利益は売上高の 3.2%を占めました。
  - **一定の連結範囲における売上高の減少に対する営業利益の減少**（一時的要素や連結範囲の変更による影響等を除く）として計算される営業レバレッジは、**21%に抑えられました**（付録の計算表を参照してください）。

## 2020 年度の各ビジネスグループの売上高と利益率

### シーティング（グループ売上高の 38%）

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
6,973	<b>売上高（百万ユーロ）</b>	<b>2,270</b>	<b>3,289</b>	<b>5,560</b>
	前年比（報告）	-37.6%	-1.3%	-20.3%
	前年比（オーガニック）	-37.2%	1.2%	-18.9%
453	<b>営業利益（百万ユーロ）</b>	<b>△23</b>	<b>213</b>	<b>191</b>
6.5%	売上高に占める割合	-1.0%	6.5%	3.4%

### 売上高

- 2020 年度第 3 四半期から第 4 四半期にかけての継続的な改善の結果、主要 3 地域すべてが好調で 2020 年度下半期は 150 bps のアウトパフォーマンス
- 2021 年度第 2 四半期から生産規模が拡大し（ダイムラーC クラス、BMW X1・X2、ジープグランドワゴニア、プジョー308 等）、2021 年度は 700 bps を超える大幅なアウトパフォーマンスの見込み

### 営業利益

- 2020 年度下半期の営業利益率は 6.5%と、すでに 2019 年度通期に並ぶ水準

インテリア（グループ売上高の31%）

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
5,370	売上高（百万ユーロ）	1,922	2,622	4,544
	前年比（報告）	-30.0%	-0.1%	-15.4%
	前年比（オーガニック）	-36.9%	-9.3%	-23.4%
294	営業利益（百万ユーロ）	△93	112	19
5.5%	売上高に占める割合	-4.8%	4.3%	0.4%

売上高

- 2020 年度下半期は、以下の影響により不振
  - 音響および装飾事業で 11.4%の大幅減
  - プログラムが遅れたことで工具類の売上高が 26.0%の大幅減
- 2021 年度の売上高は、ポートフォリオを再重点化して工具類の売上高が回復することで、大幅なアウトパフォーマンスが戻る見込み

営業利益

- 2020 年度下半期の営業利益率は 4.3%で、2020 年度上半期から大幅に回復
- アコースティック事業（AST）の売却と装飾事業の終了は、2021 年度業績のプラス材料

クリーンモビリティ（グループ売上高の 26%）

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
4,654	売上高（百万ユーロ）	1,647	2,177	3,823
	前年比（報告）	-30.0%	-5.4%	-17.8%
	前年比（オーガニック）	-29.5%	-0.8%	-15.3%
525	営業利益（百万ユーロ）	10	191	201
11.3%	売上高に占める割合	0.6%	8.8%	5.3%

売上高

- 2020 年度下半期は市場とほぼ足並みを揃えた業績（50 bps 減）
  - 中国では売上高が 2 桁成長
  - 欧州および北米で商用車の売上高が減少し、各地域の商用車市場トレンドに沿う形に
- 2021 年度の売上高は、商用車市場の回復と電気自動車のシェア増加に支えられ、大幅なアウトパフォーマンスが戻る見込み

営業利益

- 2020 年度下半期の営業利益率は 8.8%で、2020 年度上半期から大幅に回復

クラリオン エレクトロニクス（グループ売上高の 5%）

2019 年度 (9ヶ月)		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
771	売上高（百万ユーロ）	331	396	727
	前年比（報告）	41.0%	-26.2%	-5.8%
	前年比（オーガニック）	-49.4%	-15.7%	-26.0%
12	営業利益（百万ユーロ）	△9	4	△5
1.5%	売上高に占める割合	-2.7%	1.0%	-0.7%

**売上高**

- 2020 年度上半期と同様、2020 年度下半期も不振。クラリオンの主要顧客である日産の影響を引き続き強く受ける
- 以下の要素に支えられ、2021 年度以降は売上高が大幅に増加する見込み
  - 3つの製品ラインに重点を置いたポートフォリオ
  - 2020 年度の受注高 25 億ユーロに見られるビジネスの勢い

**営業利益**

- コスト競争力を得るための挑戦的なロードマップによる恩恵を早くも受け、2020 年度下半期に黒字に戻る
- 500 万ユーロの統合コストを除くと、2020 年度の営業利益は損益分岐ライン上

**2020 年度の各地域の売上高と利益率**

**欧州（グループ売上高の 47%）**

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
8,641	<b>売上高（百万ユーロ）</b>	<b>3,027</b>	<b>3,945</b>	<b>6,972</b>
	前年比（報告）	-33.2%	-4.0%	-19.3%
	前年比（オーガニック）	-36.1%	-7.5%	-22.5%
558	<b>営業利益（百万ユーロ）</b>	<b>△113</b>	<b>186</b>	<b>73</b>
6.5%	売上高に占める割合	-3.7%	4.7%	1.0%

**売上高**

- 以下の要素を反映し、2020 年度下半期の売上高は不振
  - 上述のインテリアの業績不振
  - クリーンモビリティ商用車の売上高が 2 桁減少

**営業利益**

- 2020 年度下半期の営業利益率は 4.7%。アコースティック・装飾事業（インテリア）における損失の影響を受けた結果

**北米（グループ売上高の 25%）**

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
4,483	<b>売上高（百万ユーロ）</b>	<b>1,475</b>	<b>2,157</b>	<b>3,632</b>
	前年比（報告）	-35.6%	-1.7%	-19.0%
	前年比（オーガニック）	-41.7%	-1.8%	-22.2%
283	<b>営業利益（百万ユーロ）</b>	<b>△84</b>	<b>117</b>	<b>33</b>
6.3%	売上高に占める割合	-5.7%	5.4%	0.9%

**売上高**

- 以下の要素を反映し、2020 年度下半期の売上高は不振（第 4 四半期は 70 bps に留まる）
  - クリーンモビリティ商用車の売上高が 2 桁減少
  - クラリオン エレクトロニクス（日産）の売上高が 2 桁減少

**営業利益**

- 2020 年度下半期の営業利益率は 5.4%で、2019 年度下半期の収益性（5.9%）に接近

アジア（グループ売上高の24%）

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
3,766	売上高（百万ユーロ）	1,470	2,058	3,528
	前年比（報告）	-14.3%	0.4%	-6.3%
	前年比（オーガニック）	-23.2%	2.8%	-9.1%
374	営業利益（百万ユーロ）	101	208	308
9.9%	売上高に占める割合	6.8%	10.1%	8.7%

売上高

- 2020 年度下半期はアジアで 150 bps、中国で 470 bps のアウトパフォーマンス
- 2020 年度下半期の中国における売上高は 15 億ユーロ、オーガニックベースで 11.2%の増加。国際的な OEM や新規顧客、商用車の売上が好調なシーティングとクリーンモビリティが牽引

営業利益

- 2020 年度下半期の営業利益率は売上高の 10.1%と、すでに 2 桁台に復帰

南米（グループ売上高の3%）

2019 年度		2020 年度上半期	2020 年度下半期	2020 年度
696	売上高（百万ユーロ）	157	242	398
	前年比（報告）	-54.6%	-31.3%	-42.8%
	前年比（オーガニック）	-42.1%	-6.8%	-24.2%
47.9	営業利益（百万ユーロ）	△14	8	△6
6.9%	売上高に占める割合	-8.8%	3.4%	-1.4%

売上高

- 2020 年度下半期は 460 bps のアウトパフォーマンス：ブラジル（南米の売上高の約 90%を占める）のオーガニック売上高は 7.4%減少、アルゼンチンのオーガニック売上高は 1.5%減少

営業利益

- 2020 年度下半期に黒字に戻る
- 2019 年度の営業利益は、ブラジルでの税控除（PIS-Cofins）による 1,600 万ユーロの収入を含む

構造改革費用の増加にもかかわらず、下半期は黒字に戻り、5,400 万ユーロの利益  
通期の純損益（グループ持分）は 3 億 7,900 万ユーロの損失

グループの営業利益は、2019 年度の 12 億 8,300 万ユーロに対し、4 億 600 万ユーロ

- 企業結合で取得した無形資産償却費**：2019 年度の純損失 5,600 万ユーロに対して 9,200 万ユーロの純損失。この増加は主にクラリオン エレクトロニクス の 5,300 万ユーロ、SAS（11 ヶ月）の 2,600 万ユーロを反映したものです。
- 構造改革費用**：2019 年度の純損失 1 億 9,400 万ユーロに対し、2 億 8,600 万ユーロの純損失。この増加は、コロナ危機に対応するための措置を反映しています。構造改革費用は徐々に減少していき、2021 年度には 1 億 2,000 万ユーロ程度まで下がり、2022 年度以降は通常レベルの 8,000 万～1 億ユーロに落ち着く見込みです。
- その他の経常外営業損益**：2019 年度の純損失 2,000 万ユーロに対し、900 万ユーロの純利益。これには以下のものが含まれています。
  - 保有する SAS の株式 50%の再評価による 1 億 7,800 万ユーロの利益
  - クラリオン エレクトロニクスののれんの減損による 1 億 5,000 万ユーロの損失
- 金融収支**：2019 年度の純損失 2 億 1,900 万ユーロに対し、2 億 2,300 万ユーロの純損失



- **法人所得税**：2019年度の純損失1億6,700万ユーロに対し、1億2,300万ユーロの純損失。これには、中国における好調な業績に対する課税5,500万ユーロが含まれています。
- **関連会社の純利益**：2019年度の3,800万ユーロの利益に対し、1,300万ユーロの損失。2019年度にはSASによる1,900万ユーロのプラスが含まれ、2020年度にはシンビオによる1,700万ユーロのマイナスが含まれています。

少数株主利益調整前の純利益は、2019年度の6億6,500万ユーロの利益に対して、3億2,100万ユーロの損失でした。

少数株主利益は、2019年度の7,500万ユーロに対し、5,700万ユーロでした。

純利益（グループ持分）は、2019年度の5億9,000万ユーロの利益に対して、3億7,900万ユーロの損失でした。

**ネットキャッシュフローは600万ユーロの収入。下半期のキャッシュフローが11億ユーロの収入で、上半期の現金支出を相殺**

**6月30日時点と比較し、12月31日時点の債務が大幅に減少。レバレッジ解消がEBITDAに対する純負債の比率の改善に反映**

**流動性が大幅に改善され、コロナ危機前の水準以上に**

EBITDAは2019年度の24億400万ユーロに対し、16億7,900万ユーロでした。これは、減価償却費および償却費が増えたことにより減少した営業利益における8億7,700万ユーロの減少を反映しています。2019年度通期のEBITDAマージンが売上高の13.5%であったのに対し、2020年度下半期のEBITDAマージンは13.8%でした。

- **設備投資**は、2019年度における6億8,500万ユーロの支出に対して、4億7,900万ユーロの支出に抑えられました。2021年度の資本的支出は6億ユーロを下回る見込みです。
- **研究開発費**は、2019年度における6億8,100万ユーロの支出に対して、6億1,900万ユーロの支出でした。設備投資は30.1%減少し、研究開発費は9.1%減少しました。これは、活動の抑制と柔軟性向上に向けた取り組みを反映しています。
- **運転資本要件の変動**は、2019年度における1億6,600万ユーロの収入に対して、9,500万ユーロの支出でした。下半期における運転資本要件の変動が5億5,200万ユーロの収入であったことで、上半期における6億4,700万ユーロの支出を大幅に相殺できました。
- 運転資本要件の変動に加えて、**債権のファクタリング**は2019年度末と比較して3,800万ユーロ増加しました。債権のファクタリングは、年末時点で約10億ユーロ（9億7,200万ユーロ）という通常レベルに戻りました。
- **構造改革費用**は、2019年度における1億6,600万ユーロの支出に対して、1億2,500万ユーロの支出となりました。2021年度の構造改革費用による現金支出は、約1億8,000万ユーロとなる見込みです。
- **金融費用（純額）**は、2019年度における1億9,700万ユーロの支出に対して、2億1,000万ユーロの支出となりました。これは債務の増加と、流動性を保持するためにコロナ危機のなか行われた取り組みに関する一時的な要素を反映しています。
- **法人所得税**は、2019年度の2億9,600万ユーロに対し、1億9,700万ユーロの支出となりました。
- **その他の運用項目**は、2019年度における9,900万ユーロの収入に対し、1,500万ユーロの収入となりました。2019年度には、埼玉のクラリオン本社の売却により得た収入1億1,000万ユーロが含まれています（損益への影響なし）。

ネットキャッシュフローは、2019年度における5億8,700万ユーロの収入に対し、600万ユーロの収入でした。下半期のネットキャッシュフローが10億5,100万ユーロという大きな収入であったことで、上半期の現金支出10億4,500万ユーロを相殺できました。

- **配当金の支払額（少数株主を含む）**は、2019年度における2億1,200万ユーロの支出に対して、3,500万ユーロの支出でした。2020年度には、コロナ危機という特別な状況により株主への配当はなかったため、この金額は少数株主に対する支払いのみを表しています。
- **株式の取得**は、2019年度における2,900万ユーロの支出に対して、100万ユーロの収入でした。
- **金融投資およびその他の現金要素の純額**は、2019年度における14億8,600万ユーロの支出に対して、3億6,400万ユーロの支出でした。これには主にSASへの投資（50%）が含まれ、2019年度にはクラリオンの買収が含まれていました。

IFRS16に関連する2億1,100万ユーロのマイナス影響を受けた後、当グループの純金融負債は6月30日時点で31億2,800万ユーロとなりました（2019年12月31日時点では25億2,400万ユーロ）。

EBITDAに対する純負債の比率は、2019年12月31日時点の1.1倍に対し、2020年12月31日時点では1.9倍となりました。2020年6月30日時点では2.3倍でしたが、2020年度末には下半期における大幅なレバレッジ解消を反映した比率になりました。

年度末に流動資産は43億ユーロとなり、そのうち利用可能な現金は31億ユーロ、未使用のシンジケートクレジットファシリティー（SCF）は12億ユーロでした。

2019年12月31日時点の流動資産は35億ユーロ（利用可能な現金は23億ユーロ、SCFは12億ユーロ）、2020年6月30日時点は31億ユーロ（利用可能な現金は25億ユーロ、SCFは6億ユーロ）でした。

## 高収益成長の見通しに対する自信を反映し、1株当たり1ユーロの配当を提案

取締役会は、5月31日にパリで開催される次回の定時株主総会で、1株当たり1ユーロの配当金の支払いを提案する予定です。配当金は6月に現金で支払われる予定です。

2021年度に配当金の支払いを再開するというこの決定は、本日のキャピタルマーケットデーで詳しく説明されますが、収益性の高い成長とキャッシュフローの見通しに対するフォルシアの自信を反映しています。

これはまた、従来の慣行通りに持続可能で進歩的な配当方針を再開し、株主に公正で魅力的な報酬を提供するというフォルシアの戦略も反映しています。

## 2021年度のガイダンスは、強力な営業レバレッジと堅実なキャッシュフローを反映

フォルシアは、世界の自動車生産台数が2021年に7,660万台まで回復し、2020年と比較して8%増加すると予測しています。

この仮定は、8,090万台というIHSマークイットの予測（2021年2月時点）よりも保守的です。その理由は、新型コロナウイルスの変異株をはじめとした不確実性が2021年上半期に存在するためです。2021年下半期に供給が間に合う可能性もありますが、電子部品の不足も不確実要素となっています。

世界の自動車生産台数が2021年に7,660万台に達するというこの仮定に基づいたフォルシアの年間財務目標は、以下の通りです。

- **売上高は165億ユーロ以上、売上高のアウトパフォーマンスは600bps超**。この売上高目標には約6億1,000万ユーロのマイナス影響が含まれており、そのうち約1億3,000万ユーロが連結範囲の変更によるもの（SASによる1ヶ月のプラス影響6,000万ユーロ、ASTの音響事業売却によるマイナス影響1億9,000万ユーロ）で、約4億8,000万ユーロが為替変動によるものです。
- **営業利益率は売上高の約7%で、コロナ危機以前の水準に接近**
- **ネットキャッシュフローは約5億ユーロで、EBITDAに対する純負債の比率は年末時点で1.5倍未満**。この目標は、構造改革による約1億8,000万ユーロの現金支出を考慮に入れています。

2021 年における世界の自動車生産台数に関するフォルシアの想定は、2021 年に生産や小売販売に影響するような大規模なロックダウンがどの自動車市場にも発生しないことを前提としています。

すべての財務目標は、2021 年の平均通貨レートである 1.18 米ドル/ユーロ、8.15 中国元/ユーロに基づいています。

## 本日開催のキャピタルマーケットデーにおいて、今後の資本構造の変化に先立ち、フォルシアの「新しい視点」の概要を説明

(本日発行の別のプレスリリースをご参照ください。)

### ステランティスによるフォルシア株の分配に関する最新情報

2021 年 1 月 16 日、FCA とグループ PSA の合併が完了し、ステランティスグループが誕生しました。同グループは、現在フォルシアの主要株主となっています。

合併プロセスの一環としてステランティスは、フォルシアの資本の約 39% に相当するフォルシア株をステランティスの株主に分配する予定です。

ステランティスは、この分配に関する承認を得るため、2021 年 3 月 8 日に臨時総会を開催することを発表しました。

この分配は、フォルシアにとって新しい章の幕開けとなります。フォルシアの浮動株比率は増大し（最大約 85%）、資本市場におけるプロフィールが改善されるとともに、独立した企業として事業戦略を打ち出せるようになります。

#### フォルシアについて

フォルシアは 1997 年に誕生し、自動車業界において世界的なメジャープレイヤーとなるまでに成長しました。世界 35 カ国に 266 の事業所と 39 の開発拠点をもち、114,000 人の従業員を擁しています。自動車用シート、インテリアシステム、クラリオンエレクトロニクス、そしてグリーンモビリティの 4 つの事業分野で世界をけん引しています。コックピット・オブ・ザ・フューチャーとサステイナブル・モビリティという成長戦略を元に技術の開発に注力しています。2020 年度のグループ売上高は 147 億ユーロでした。フォルシアはユーロネクスト・パリ証券取引所に上場し、CAC Next 20 構成銘柄に名を連ねています。詳しい情報は、[www.faurecia.com](http://www.faurecia.com) をご覧ください。

#### ■フォルシア・ジャパンメディア問い合わせ先

篠塚 郁恵  
Tel: 080 6676 7459  
[ikue.shinozuka@faurecia.com](mailto:ikue.shinozuka@faurecia.com)

坂井 木綿子  
Tel: 080 1003 3839  
[yuko.sakai@faurecia.com](mailto:yuko.sakai@faurecia.com)

## 付録

## 本文中で使用されている用語の定義

## 1. 売上高の変動

フォルシアでは、前年比の**売上高の変化**は、次の3つの要素で構成されます。

- 前年度の売上高にその期間の平均為替レートを適用して算出された「**為替差損益**」
- 「**連結範囲の変更による影響**」（買収・売却）
- 「**為替変動の影響を除いた成長**」

フォルシアは、年間ベースの売上高が2億5,000万ユーロを上回る企業の買収および売却をすべて「連結範囲の変更による影響」として開示しています。

この基準値を下回る買収については「ボルトオン買収」と見なされ、「為替変動の影響を除いた成長」に含まれます。

2020年には「ボルトオン買収」による影響はありませんでした。その結果、「為替変動の影響を除いた成長」は、一定の連結範囲と為替レートにおける売上高の変動（オーガニック変動とも表示される）に相当します。

## 2. 営業利益

営業利益は、フォルシアグループの主要業績評価指標です。これは、以下を反映する前の、完全連結会社の純利益に相当します。

- 企業結合で取得した無形資産の償却費
- 重要で特別かつ経常外の項目に対応する、その他の経常外営業利益および費用。これには、組織再編費用や早期退職費用のほか、事業の中止、工業用地の閉鎖または売却、営業外建物の処分等の例外的な事象の影響、有形固定資産または無形資産について計上された減損損失、およびその他の重要かつ特別な損失が含まれます。
- ローン、現金投資、および市場性のある有価証券からの収入、および金融費用
- その他の金融収益および費用。これには、年金給付債務の割引による影響や関連制度資産からのリターン、金利・為替ヘッジの無効部分、IFRS第9号に基づいて明示できない関係性のなかで定められた基準をヘッジ関係が満たさない金利や為替商品の価値変動、および子会社株式の売却による損益が含まれます。
- 税金

## 3. ネットキャッシュフロー

ネットキャッシュフローは次のように定義されます。営業活動および投資活動によるキャッシュフローから、資本持分および事業の買収・処分（現金および現金同等物を控除）、金融資産の処分によるその他の変動と収入を差し引いたもの。IFRS第16号の債務の返済は含まれません。

## 4. 純金融債務

純金融債務は次のように定義されます。総金融債務から現金および現金同等物、非流動資産および流動資産に分類されるデリバティブを差し引いたもの。これにはリース負債（IFRS第16号の債務）が含まれます。

## 損益計算書

2019年度	単位：百万ユーロ	2020年度 上半期	2020年度 下半期	2020年度	増減
17,768	売上高	6,170	8,484	14,654	-3,114
	オーガニック変動	-35.4%	-3.5%	-19.6%	
1,283	営業利益 (取得した無形資産償却費前)	△114	520	406	-877
△56	企業結合で取得した無形資産償却費	△46	△46	△92	
1,227	営業利益 (取得した無形資産の償却費反映後)	△160	474	315	-912
△194	構造改革費用	△89	△197	△286	
△20	その他の経常外営業利益・費用	16	△7	9	
△219	純支払利息およびその他の金融収益・費用	△108	△115	△223	
794	完全連結会社の税引前利益	△341	155	△185	
△167	法人所得税	△67	△56	△123	
-21.0%	税引前利益の割合	—	-36.1%	—	
627	完全連結会社の税引前純利益	△408	99	△309	-936
38	関連会社の純利益	△12	△1	△13	
665	少数株主利益調整前連結純利益	△420	99	△321	
△75	少数株主利益	△13	△45	△57	
590	連結純利益 (グループ持分)	△433	54	△379	-969

## キャッシュフロー計算書

2019年度	単位：百万ユーロ	2020年度 上半期	2020年度 下半期	2020年度	増減
1,283	営業利益	△114	520	406	-877
1,121	減価償却費および償却費	623	650	1,273	
438	- 研究開発無形資産償却費	243	267	509	
683	- その他の減価償却費および償却費	380	383	763	
2,404	EBITDA	509	1,170	1,679	-725
13.5%	売上高に占める割合	8.3%	13.8%	11.5%	
△685	設備投資	△235	△244	△479	
△681	研究開発費	△305	△315	△619	
166	運転資本要件の変動	△647	552	△95	
△57	ファクタリングの変動	△96	134	38	
△166	構造改革費用	△54	△71	△125	
△197	金融費用	△94	△116	△210	
△296	税金	△109	△88	△197	
99	その他 (営業関連)	△14	29	15	
587	ネットキャッシュフロー	△1,045	1,051	6	-581
△212	配当金の支払額 (少数株主を含む)	△5	△30	△35	
△29	株式の取得	0	1	1	
△1,486	金融投資およびその他 (純額)	△369	5	△364	
△906	IFRS16の影響	△91	△121	△211	
△2,046	純負債の変動	△1,510	906	△604	

△478	当期首における純負債	△2,524	△4,034	△2,524
<b>△2,524</b>	当期末における純負債	<b>△4,034</b>	<b>△3,128</b>	<b>△3,128</b>
<b>1.1 倍</b>	<b>EBITDA に対する純負債の比率</b>	<b>2.3 倍</b>	<b>1.9 倍</b>	<b>1.9 倍</b>

## ネットキャッシュフロー調整表

2019 年度	単位：百万ユーロ	2020 年度 上半期	2020 年度下 半期	2020 年度	増減
<b>587</b>	<b>ネットキャッシュフロー</b>	<b>△1,045</b>	<b>1,051</b>	<b>6</b>	<b>-581</b>
△1,130	投資資本および事業の売却・取得（純額）	△224	△28	△252	
0	金融資産の処分による収入	0	0	0	
54	継続事業によるその他の変動	△3	△9	△12	
<b>△490</b>	<b>営業活動および投資活動によるキャッシュフロー（△は支出）</b>	<b>△1,272</b>	<b>1,015</b>	<b>△257</b>	<b>233</b>

## 営業レバレッジ計算表

売上高（単位：百万ユーロ）			営業利益（単位：百万ユーロ）		
<b>2019 年度</b>	<b>17,768</b>		<b>2019 年度</b>	<b>1,283</b>	
為替差損益	△373 (a)		ポリシームによる影響	△1,476 (c)	
オーガニック変動	△3,483 (b)		回復に向けた取り組み	661 (d)	
連結範囲の変更による影響	741		連結範囲の変更およびその他の影響	3	
			2020 年度（一時的な項目を除く）	471	
			一時的な項目	△65	
<b>2020 年度</b>	<b>14,654</b>		<b>2020 年度</b>	<b>406</b>	
<b>2020 年度の営業レバレッジ (c+d)/(a+b)</b>			<b>21%</b>		
営業利益における減少（連結範囲の変更およびその他の影響と一時的な項目を除く）			△815		
売上高における減少（連結範囲の変更による影響を除く）			△3,856		